

OPINION 観光先進国を見据えた2018年の制度改革

「平成」最後の年末を迎えました。2018年は、多くの自然災害に見舞われる中でも、外国人旅行者が史上初めて3千万人を突破致しました。その中で、観光先進国を目指して将来に向けた幅広い分野で制度の見直しが行われました。

2018年は大幅な制度の見直しの年

①「旅行業法」の大改正が、年明け1月4日から施行されました。従来、旅行業法の規制がなかったランドオペレーター（国外を除く）について「旅行サービス手配業」として登録が義務づけられたこと、着地型旅行の一層の推進のため、地域限定旅行業の規制緩和が行われたこと、旅行業者と宿泊・運送機関等など法人間の取引で書面交付が義務付けられたこと、旅行業の更新登録の条件として選任された旅行業務取扱管理者について5年ごとの定期研修の受講が義務づけられたこと等です。

②「通訳案内士法」が全面改正され、1月4日から施行されました。新たに「全国通訳案内士」「地域通訳案内士」の資格が設けられるなど訪日外国人の受入体制が拡充され、そして旅程管理研修を修了した通訳案内士は、旅行業法に基づく旅程管理業務を行う主任者となることができることになりました。

③「住宅宿泊事業法」が、6月15日から施行されました。訪日外国人旅行者の急増の中、違法民泊が社会問題になっていました。このため、住宅宿泊事業者として届出住宅制度が、また、宿泊仲介事業者の制度が設けられました。

④「国際観光旅客税」が創設され、2019年1月7日以降の日本からの出国旅客から出国1回につき1,000円が徴収されることになりました。税収は、訪日外国人の出入国の円滑化や観光資源の整備など観光基盤の充実・強化のための財源となります。

⑤「特定複合観光施設区域整備法」が7月に成立しました。わが国にもカジノ統合型リゾート施設が2023年を目途に誕生することになります。

⑥「特定興行入場券の不正転売禁止法」が12月に成立し、2019年6月から施行されます。これにより、ダフ屋行為やインターネット上でのチケットの不正転売が禁止されます。

⑦「出入国管理・難民認定法」が12月に改正され、外国人労働者の受入れが2019年4月から拡大されます。ホテル・旅館などの宿泊業も受入14業種の一つに入っています。

2019年は制度改革のスタートの年

2019年は、皇太子さまが天皇にご即位される5月1日と儀式が行われる10月22日が2019年に限って祝日扱いとなります。このため、4月27日から5月6日までは10連休になります。

年明け1月7日から国際観光旅客税（出国税）の徴収が開始されます。また、10月には消費税率が引き上げられます。同時に、2019年は、2018年に行われた大幅な旅行・観光分野の改革が実質的にスタートします。今一度、制度の改正内容をご確認頂き、旅行添乗サービスの提供の際に役立てて頂きたいと思います。

日本人の国内旅行・海外旅行、インバウンドの一層の振興のために、添乗サービス提供に携わる皆様をはじめ、旅行業界、観光業界が一体となって、力を合わせて頑張ってください。

TCSA 理事
(一社) 全国旅行業協会
専務理事 有野 一馬 氏



CONTENTS

OPINION 1

観光先進国を見据えた2018年の制度改革
TCSA 理事
(一社) 全国旅行業協会 専務理事
有野 一馬 氏

特集 2

ベテラン添乗員が語る「より良い旅作り」

TOP INTERVIEW 4

株式会社ジャルパック
代表取締役社長 江利川宗光氏をお訪ねして

TCSA REPORT 6

添乗サービス業向け
「労働関係法令セミナー」開催
「ツアコンカフェ」開催しました!
「派遣元責任者講習」今後の開催日程

TCSA REPORT 7

添乗あれこれ～添乗の現場から～第19回
2000日添乗員のゴツゴツ奮闘記連載63

TCSA だより 8

運輸局長表彰
会員動向
編集後記

特集！

ベテラン添乗員が語る「より良い旅作り」

去る、2018年9月20日（木）東京ビッグサイトで開催された「ツーリズム EXPO ジャパン」の業界日に「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2018」の表彰式に引き続き、パネルディスカッション「ベテラン添乗員が語る—より良い旅作りのために—」を開催しました。昨年に引き続き、（株）JTB 総合研究所 上席研究理事 高松正人観光危機管理研究室長にモデレーターをお願いし、「添乗員が同行するツアーの魅力」をテーマとしたパネルディスカッションを会員会社をはじめ、100名を超す業界関係者の方々が熱心に聞き入っていました。

20代の貴重な出会いが添乗の原点

グランプリ（国土交通大臣賞）を受賞した村尾まき子さんは、添乗経験40年の大ベテラン。添乗経験間もない20代にフランスの3つ星レストランのシェフであるポールボキューズ氏に出会い、フランス料理に目覚めて、同氏より紹介された多くのレストランを巡り、食の感性と味覚を磨き、ソムリエの資格も取得し、その蓄積した知識を添乗にも活かして、多くのお客様に感動を与えている添乗員。高額商品の添乗だけではなく、学生団体の添乗もこなし、老若男女、あらゆる層のお客様に接することで添乗がマンネリにならないよう努力している。また、食への探求が高じて、「フードツーリズムマイスター」資格を取得し、日本フードツーリズム協会の講師として、ツアーのお客様のみならず、広く一般の方々にも食文化の楽しさを広め、「食の伝道師」としても活躍している。自身の添乗を漢字一文字で表すと「省」とのこと。自身の今までの添乗に慢心することなく、向上心を持ち、常に自身を省みることがより良い旅作りにつながっていると語った。



モデレーター
（株）JTB 総合研究所 上席研究理事 観光危機管理研究室長



パネリスト
（村尾まき子氏、藤城美幸氏、佐々木笑氏）

お客様に寄り添うコミュニケーション

委員長賞を受賞した藤城美幸さんは、添乗総日数 4,500 日を超えるベテラン添乗員で、派遣先からも優秀添乗員として表彰された。

添乗で心掛けていることは、「お客様一人一人に寄り添う」とのことで、お客様は千差万別で、一人一人が求めているものはそれぞれが異なるため、画一的なサービスではなく、お客様との会話の中で求めているものをいち早く察知して先手を打って対応することだという。

パッケージツアーでは、出発前の挨拶電話の際に、お客様が発するキーワードを聞き逃さずに、添乗中も積極的に声掛けをし、お客様が何を期待しているのかを常に考えているとのこと。

例えば、「お客様の着ているお洋服が素敵ですね」とほめるのではなく、「その洋服が良くお似合いのお客様が素敵」というように工夫している。

こういった気遣い、心配りもより良い人間関係創りに役立つと語っていた。

お客様の立場に立った対応の重要性

会長賞を受賞した佐々木笑さんは昨年添乗中に遭遇したメキシコ地震発生時に、迅速かつ的確な対応が評価された。

地震が起きたメキシコシティに向かう途中のサービスエリアで地震発生 of 情報を入手。メキシコシティ周辺ではガス爆発も起こっており、宿泊も食事も困難になることが想定されたことから、「自分がお客様だったら何をして欲しいだろう」ということを第一に考え、まずはサービスエリアで日持ちするパンと飲み物を人数分購入した。

現場では、電話が繋がらない状況であったが、SNS だけはつながることが分かったため、そのことをお客様に伝え、各自安否確認の連絡を入れたことで大きな不安の一つを取り除くことができた。

また、宿泊予定のホテルも大きな被害を受けたが、ホテルと辛抱強く交渉し、宿泊することができた。

佐々木さん曰く、どのような状況下においても、添乗員として安全確保はもちろんのこと、不安になっているお客様が「今、何をして欲しいのか」を常に考えることが、ツアーを成功させるためには非常に重要だと語った。

経験を重ねるにつれて、お客様目線から外れることもあるが、原点に立ち返って、初心を忘れずにお客様目線で添乗業務を続けていきたいと語った。

今回3名の受賞者とも、より良い旅作りのためには、お客様に寄り添い、お客様が一番何をして欲しいか、期待しているかを真っ先に察知して対応することが重要とのべていたのが印象的であった。

当日参加の業界関係者からも現場で活躍している現役添乗員の話は説得力があり、添乗員はツアーにとって非常に重要な存在であることを再認識し、添乗員の話に感動した等、高い評価をいただいた。



前列左から

藤城美幸氏 (株)&J ヒューマンソリューションズ)
村尾まき子氏 (株)&J ヒューマンソリューションズ)
永井一浩氏 (観光庁参事官)
吉村作治氏 (選考委員長、エジプト考古学者)
西城広氏 (株)トップ・スタッフ)
佐々木笑氏 (株)ジャッツ)

後列左から

清水誠氏 (中村学園大学短期大学部名誉教授)
南砂氏 (読売新聞東京本社常務取締役調査研究本部長)
山田隆英実行委員長
坂巻伸昭氏 (東武トップツアーズ株式会社代表取締役社長)
三橋滋子 日本添乗サービス協会会長

株式会社ジャルパック 代表取締役社長 江利川 宗光氏

紅葉が美しい季節、天王洲アイルの日本航空本社ビルを訪ね、今年の6月に就任された株式会社ジャルパック江利川宗光代表取締役社長のインタビューに伺いました。

三橋滋子会長（以下敬称略）

就任されたばかりの業界紙インタビューなどで、収益性を重視されることを強調なさっておられたのが印象に残っておりますが・・・。

江利川代表取締役社長（以下敬称略）

私自身、JALの破綻を人事部長として経験し、二度とこのようなことを繰り返してはならないと痛感し、収益性と成長性は特に強く願っております。

成長性が期待されるパッケージツアー

三橋 海外旅行のFIT化が進展している中、商品造成をどのような方針でお考えかを先ず伺わせていただけますでしょうか。

江利川 マーケットは2極化、或いはそれ以上に分かれてきており、パッケージそのものは成長を期待しづらくなっていると感じています。一方、FIT等の個人型が伸びているものの、高額商品で添乗員同行のツアーも根強い人気があります。

これからも、パッケージツアーがこの世の中からなくなることはないと思っています。

今年は国内の様々なところで自然災害が発生し、夏場以降、影響を受けた方面もありますが、弊社としては、国内旅行は総じて堅調に推移しています。ダイナミックパッケージは良い勢いで伸びましたが、パッケージツアーも悪くありませんでした。比率としては、ダイナミックパッケージの方が大きいのですが、今後もさらに伸びてパッケージを全て食ってしまうかという、そうではないと思っています。パッケージツアーは今後も一定のお客様の支持を頂けると個人的には思っております。海外旅行は現時点では国内に比べダイナミックパッケージの比率は低く、更に伸びる余地が大きいですが、今後も海外のパッケージツアーがなくなるとは思えません。



私の知り合いで、バリバリのビジネスマンで自分で何でもできる方がいるのですが、偉くなって経済的余裕ができてからはJALPAK商品を選んでいただいています。時間とお金に余裕のある方は旅の質を求められています。

三橋 やはり、一度パッケージに参加されると、楽しいことを知り、その後はパッケージにご参加される方が多いようです。官庁で退官された方々に伺いますと、ほとんどの方が海外のパッケージ旅行に参加されたとうかがいます。

江利川 自分自身の若い時の話をしますと、旅行手配を全て自分でやるということが、自分が時代の先端を行っているという感覚で、自己満足していたと思います。でも、今となってみれば、「本当はこういうところに行けばよかった。旅行のプロの意見を聞けばよかった」とか思うことがあります。年を取ってみて、パッケージツアーの良さに気づくのではないのでしょうか。

三橋 私自身も最近は専ら、旅行会社が主催するパッケージツアーに参加させていただいております。昔のように、自分で手配していくことはありません。現地で何かあった際、すべて自分でやらなければならないので、大変ですので・・・

江利川 先日、家族旅行で海外に行ったのですが、現地では自分でネット手配した安いオプションツアーに行こうと思いましたが、前の日に中止となり、クレジットカードでの支払いだったため、払い戻しの手続きなど色々と苦勞しました。やはり日本のサービスを海外で個人手配で期待するのは難しく、今度は、JALPAK商品で行こうと思っています。

三橋 つい最近の新聞で日本航空の社長がLCCの導入後でヨーロッパ路線にというニュースが出ておりましたが、ジャルパックさんもLCCを使ったツアーを造られますか？

江利川 今はLCCさんとの取引はありませんが、グループのLCCということになれば、私どもとしては新たな分野に挑戦していきたいと考えております。但し、新LCC会社の販売ポリシー等確認しなければ、こちらの意向だけでは取り組めないと思いますが・・・

マーケットのニーズも多極化しているので、高額の品質を求めるお客様もいれば、価格重視のお客様もいらっしゃるので、JALが関係しているLCCであればということでは期待があるかもしれません。そのようなお客様を取り込めるという点で関心があります。

三橋 私どもの会員企業に所属する添乗員は、ほとんどのツアーでお世話になっておりますが、今後も添乗員同行のツアーを主商品として考えていらっしゃいますか？

江利川 これからも、ヨーロッパは特にニーズがあり、価格帯としては上のクラスになりますが、文化・歴史のある所や言語上の問題のあるデスティネーションに設定をしていくと思います。専門性や高い品質の必要とされる分野で大事にしていきたいと思っています。

三橋 デスティネーションとしては、新たに開発される所はございますか？

江利川 我々は、JALグループの旅行会社なので、基本的にJAL便の飛んでいるところが対象であり、JALを売ることが一つのミッション

ではありますが、既に商品化しているアマゾンのクルーズであるとか、南極であるとか、(JAL の飛行機が飛んでない所でも) ひとりでは行けない魅力ある所はまだまだあるので、そういうところも開発して行きたいと思っています。個人的な話になりますが、学生の頃、1 年間ブラジルに留学したことがあり、南米は良いところがたくさんあるのでディステーションとして考えていきたいですね。

添乗員は旅行会社にとってのパートナー

三橋 添乗員の存在価値についてはどのように思われますか? 同行するツアーの価値、期待感等、についてお聞かせいただけますか。

江利川 我々にとって、特に高額商品を買っていただける方に完璧なサービスを提供したいという思いは誰よりも強くあります。それらのお客様に全行程我々が同行してお世話することは出来ません。飛行機内については、我々の仲間であるキャビンアテンダントがやってくれますが、乗り継ぎや旅行行程のすべてに関して、責任をもってくれるツアーコンダクターは我々の同志であり、重要なパートナーだと思っています。

JR 東日本が運行している四季島のトレインクルーズを地方からのお客様に提供していますが、そこにツアーコンダクターがついているというのは非常に心強いものがあります。私は必ず上野駅でお見送りをしますが、その際、いつもツアーコンダクターの方に「お客様をよろしくお願いします」と伝えています。帰ってきて、お客様が皆さま喜ばれ、ツアーコンダクターの方に対するお褒めを聞くと、我々自身に対してもお褒めの言葉をいただいたように大変嬉しく感じます。

三橋 私どもの協会は、添乗専門職の方々を育成して、旅行会社に提供させていただく事業を行っておりますが、発足当初は例えばジャルパックさんの添乗を行うレベルに教育するために大変苦勞をしました。その当時の添乗員が高齢化してきています。ツアーコンダクターを抱えている旅行会社によっては添乗員の定年 60 歳を打ち出したりしていますが、添乗員を抱える会員会社では、年齢ではなく意欲・能力や体力があれば仕事をしていただきたいと思っています。ジャルパックさんでは、ツアーコンダクターの定年をお考えでしょうか?

江利川 その問題については、具体的にはこれからの検討課題と考えていますが、一般的に言えば人生 100 年時代の中で、能力・やる気・健康面で問題なければ、個人個人で見ても判断していけば良いのではと思います。一方で、若い人たちにも素晴らしい仕事であるということを伝え、色々な場とチャンスを提供していく必要があると思います。

三橋 ありがとうございます。自分が努力をし続ければ、年齢制限もなく仕事ができるということになりますので、ツアーコンダクターの方々の励みにもなると思います。現在、協会では厚生労働省の受託事業として、高齢化する添乗員をどのように活用していくかということに取り組んでおります。

ところで、ジャルパックさんは、インバウンド旅行については・・・?

江利川 まだ少ないですが取り組んでおり、WEB 上でダイナミックパッケージとして販売しております。

AIR とホテルの組み合わせというシンプルな商品です。タイとオーストラリアで始めたばかりで、まだ細々とやっております。基本は AIR とホテルですが、今後はオプションなども選べるものにしていきたいと思っています。12 月にもう 1 カ国を加え、今年度は 3 カ国だけですが、ビジネスとして相手国の法的問題等のないことをきっちり確認の上、来年度以降、順次、対象国・地域を拡大していきます。

三橋 観光庁はインバウンドを拡大していくと掲げておりますが、中国からのお客様などは、日本の旅行会社を経由しないことが多く、なかなか私どものビジネスに繋がっておりません。

江利川 中国の場合、FIT 化が急速に進んでいることに加え、日

本にいる中国人の方や帰化された等、中国系の方の総数は 100 万以上と推定されますので(注: 法務省統計上は平成 29 年末で 73 万人)、日本企業の力に頼らずとも、日本でのオペレーションを完結できるのではと思っています。

ただ、そこについて言うと、私見ではありますが、時間的に長い目で見てあげてほしいと思います。また、基本は民間主導で取り込みに努力していくしかないと考えています。中国・韓国からの訪日客の経済効果は大きく、多くの中国人が日本に来ることで、日本に対する国民感情が大きく改善されてきているのも事実だと思います。もっと、日本の奥深いところを知りたくなるお客様が増えれば、これから段々と日本の人たちのお手伝いを必要とする方やビジネスチャンスも出てくると思います。

我々が狙うマーケットはどこなのかを明確にし、適切な打ち手を講じていけば、いずれプラスになると思います。そのためには、官の規制を待つよりは、まずは自分たちで働きかけることが必要ではないでしょうか。

三橋 JAL の中国総代表として 5 年間中国に居られた社長のお言葉としての重みを感じます。

社員・添乗員への期待

三橋 協会は人材育成が主たる事業でございますが、協会に対してのご要望はございますでしょうか。

江利川 ジャルパックに来て、社員にお願いしていることがあります。一つは自立型の人間になってほしいと言っています。自立し、会社や仲間を支えていける人間になってほしいと言っています。一人一人の社員が輝かないと、お客様に夢や感動を与えることができないと思っています。

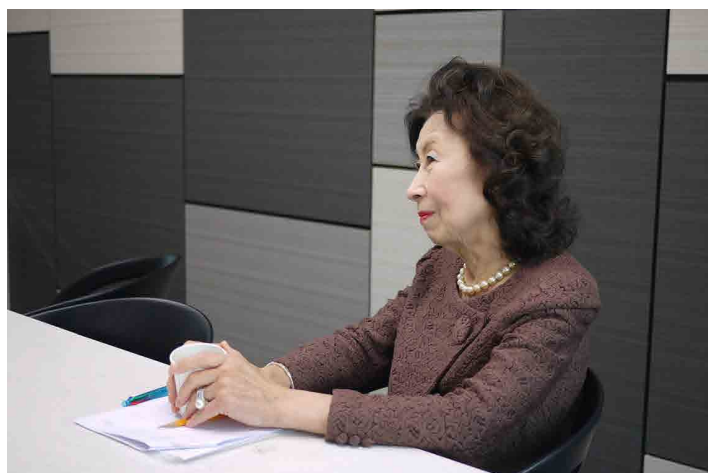
同じように、ツアーコンダクター一人一人が輝いて欲しいというのが願いです。その集合体が添乗サービス協会であることを願っています。ツアーコンダクター皆さんがますます元気に、誇りと希望を持ってご活躍頂けるようご尽力いただければと思います。

三橋 これをご縁に、更にツアーコンダクターに関心を持っていただければ幸いです。

江利川 毎年ツアーコンダクターの表彰を行っていますが、今までは CS 担当役員から表彰を行ってきました。今年からは、私自身が自ら会社を代表して表彰し、ツアーコンダクターの方に心を込めて感謝を直接伝えるようにしました。

三橋 それも画期的なことでございますね。お忙しい社長から直々にお言葉をいただけるのは、ツアーコンダクターにとっては、至上の幸せと存じます。本日は本当に貴重なお話をありがとうございました。

江利川 社長から様々の話を伺い、2 階のホールに懐かしい鶴丸マークの飛行機が飾られた JAL の本社を後にしました。



添乗サービス業向け「労働関係法令セミナー」開催

TCSA では、添乗サービス業に影響のある労働契約法（無期転換ルール）や働き方改革関連法に関するセミナーを全国5ヶ所で開催した（札幌及び大阪地区は平成 31 年 1 月に開催）。

特に働き方改革関連法（残業上限問題）に関しては、派遣先である旅行会社にも影響のある問題であることから、JATA 後援の下、旅行会社の方にも参加してもらい開催した。

このセミナーは厚生労働省のセミナー事業を活用して開催するもので、一般的な内容ではなく、事前に参加者から聞きたい内容や質問を挙げていただき、その内容について講師である社会保険労務士の方に回答してもらう形式で開催いたしました。

札幌及び大阪地区については、下記日程で現在申し込み受付中でございますので、参加を希望される方は TCSA 事務局までご連絡ください。

【札幌】

開催日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）13:30 ～ 16:00

会 場：北海道建設会館 9F 大会議室
札幌市中央区北 4 条西 3 丁目 1 番地

<http://www.h-kensetsukaikan.co.jp/mapinfo.html>

【大阪】

開催日時：平成 31 年 1 月 17 日（木）10:30 ～ 13:00

会 場：LEC 梅田駅前本校 408 教室（4F）
大阪市北区茶屋町 1-27 ABC-MART 梅田ビル 4F

<http://www.lec-jp.com/school/umedaekimae/>

「ツアコンカフェ」開催しました！

ツアーコンダクターという職業に興味・関心のある学生と現役ツアーコンダクターとの交流の場として「ツアコンカフェ」を 12 月 18 日に TCSA 研修室で開催しました。

当日は 14:30 ～、15:45 ～、17:00 ～の 3 部に分けて入れ替え制で開催し、大学・専門学校・短大の学生 22 名と TCSA 会員所属添乗員 3 名とで和気あいあいとした雰囲気の中、学生から積極的に質問され、添乗員の回答に真剣に聞く姿がとても印象的でした。

参加した学生からは、「現役のツアーコンダクターの話が聞けてとても良かった」、「良い話だけではなくこの仕事の大変さも知ることができた」、「自身の就職に役立つ内容だった」等の多くの感想をいただきました。

この「ツアコンカフェ」は、平成 31 年 2 月 19 日（火）に今年度 2 回目を開催します。詳細は TCSA 事務局までお問い合わせください。

「派遣元責任者講習」今後の開催日程（1月～3月）

日	地 区	会 場
平成 31 年 1 月 9 日（水）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 1 月 16 日（水）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 1 月 25 日（金）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 1 月 30 日（水）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 2 月 5 日（火）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 2 月 8 日（金）	大 阪	エルおおさか（大阪府立労働センター）
平成 31 年 2 月 12 日（火）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 2 月 20 日（水）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 2 月 27 日（水）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 3 月 8 日（金）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 3 月 14 日（木）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 3 月 20 日（水）	東 京	TCSA 研修室
平成 31 年 3 月 28 日（木）	東 京	大井町きゅりあん

現場の添乗員が、添乗現場で最近感じることやエピソードを自由に寄稿いただくコーナーです。

～添乗の現場から～ 第19回

「思い出（記憶）の残し方」

スマートフォンって便利だけど不便です。添乗員として最近特に感じている事です。気軽に写真を撮れますが、現像するとやっぱりカメラの方が素敵な明るい写真が出来ます。ここは！という場所では「カメラで写真を撮りませんか？」と声をかけていますが「カメラは重いから」「スマホがあるから」という方が多いのがここ最近の傾向です。もったいないなあ。せっかくのチャンスなのに…。「旅行」というのは一生に一度しかないチャンスに巡り合う機会だと思って毎回お客様に同行していますが、スマートフォンで写真を撮っているお客様ほど「ここ何処だっけ」と画像を見せて下さる方が多いですし、アルバムの中の画像を見つける為に話の腰が折れてしまう事もしばしば。もちろん手軽な事は良い事です。ただ、手軽すぎるのは良くない事ではないでしょうか。気軽に何処にでも行けるようになった現在、「思い出に残る旅行」に同行したいと強く思っています。



添乗

あれこれ

(株)読売旅行添乗員：鴨下 麻美さん



2000日添乗員のコツコツ奮闘記

連載 63

<遊ぶ>

エヌ産業（有）派遣事業部 添乗員：川口 国浩さん



1982年に添乗員の仕事を始めて今年で添乗員生活が35年を超えました。会社から添乗日数が6,000日を超えたと聞き、日数の多さに驚かされました。この原稿の依頼をいただき、改めてこの35年間を振り返ると、人

生のほぼ半分を見知らぬ土地で見知らぬ人（お客様）と過ごしたことになります。

添乗員を始めた頃は日程をこなすだけで一生懸命でしたが、余裕ができた今ではお客様と一緒に「遊ぶ」ということを心がけています。添乗員は同じ観光地に何度も訪れ、残念なが

らその感動も都度薄れていきます。「写真だけ撮ってバスにお戻りください」ではなく、初めて行った時のようにナイアガラの水しぶきを浴びながらお客様とはしゃぎます。

ユングフラウヨッホの雪を口にして10度目の「冷たい！」を言います。イグアスのボートで10枚目の下着を濡らします。ピラニアの釣果をお客様と本気で競います。

後であの添乗員さんで行って楽しかったと思っていただけるように、これからも一緒になって「遊び」たいと思っています。こんな私に35年もお付き合いいただいたお客様に感謝です。



運輸局長表彰

TCSA
だより

平成 30 年度九州・関東及び近畿運輸局長表彰に TCSA 正会員所属添乗員 13 名が受賞され、九州が10月、関東及び近畿が11月に表彰式が開催されました。
受賞おめでとうございます。

【九州運輸局長表彰受賞者】

須崎みゆきさん (株) エコールインターナショナル所属 21年 3,392日
※勤続年数及び日数は2018年7月現在

【近畿運輸局長表彰受賞者】

池内裕美子さん (株) フォーラムジャパン所属 22年 3,569日
森本 貴子さん (株) ツーリストエキスパーツ所属 29年 4,942日
川東 幸恵さん (株) ツーリストエキスパーツ所属 31年 4,045日
※勤続年数及び日数は2018年8月現在

【関東運輸局長表彰受賞者】

豊田 誠 さん (株) フォーラムジャパン所属 31年 4,876日
清水 久栄さん (株) フォーラムジャパン所属 31年 5,916日
原 昌代さん (株) ジャッツ所属 31年 5,017日
及川 良江さん (株) ジャッツ所属 31年 4,828日
玉田 裕子さん (株) ジャッツ所属 30年 5,003日
梅津 真理さん (株) JTB所属 31年 5,091日
高田 信子さん (株) JTB所属 33年 5,049日
中川 洋子さん (株) JTB所属 34年 5,779日
濱口 勤子さん (株) JTB所属 33年 4,542日
※勤続年数及び日数は2018年8月現在

会員動向

正会員

●脱会

(株) アヴニールインターナショナル
脱会日：平成 30 年 10 月 31 日
脱会理由：派遣事業終了のため

●住所変更

(株) アドバンス

新住所：〒460-0008 名古屋市中区栄3丁目4番15号 鏡栄ビル7階
新電話番号：052-241-7388 新FAX番号：052-241-7580

(株) 旅行綜研 札幌営業所

新住所：〒060-0001 札幌市中央区北1条西4丁目2-2 札幌ノースプラザ7階
※電話番号及びFAX番号は変更なし

〇〇〇〇 編集後記 〇〇〇〇

若年層の海外旅行が低迷している一方、海外での異文化体験を授業の一環としている教育機関も出てきています。未知なる地での貴重な生活体験や発見、感動がその後の人格形成にも大きな影響を与えるに違いありません。(S. M)

一般社団法人 日本添乗サービス協会
〒105-0014 東京都港区芝 1-10-11 コスモ金杉橋ビル6階
TEL(03)6435-1508・FAX(03)6435-1509
E-mail tcsa@tcsa.or.jp
URL <http://www.tcsa.or.jp/>